

## 学会史・資料

## 日本古生物学会学会史 [平成7年(1995) - 平成16年(2004)]

矢島道子

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-10-901

## History of the Palaeontological Society of Japan, 1995-2004

Michiko Yajima

#901, 6-2-10, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033 (pxi02070@nifty.com)

本会創立70周年にあたり、この10年間の学会の歩みを前回(化石58号)の記録を追補する形で表記した。なお、定期的刊行物の出版記録は別にまとめたので年表では省略した。

## 学会史年表

## 平成7年(1995)

- 2月1日 第2次長期計画委員会継続。  
2月2-4日 1995年総会・年会を名古屋大学で開催(参加者224名)。総会で論文賞を延原尊美君に、学術賞を岡本隆君、植村和彦君に授与。60周年記念式典 会長挨拶、感謝状贈呈、貢献賞授与。会長講演、特別講演1、シンポジウム「哺乳類の系統進化研究の現状と将来展望」講演9件、一般講演94件、普及講演会・長谷川善和「日本に象が生きていたころー日本の化石動物の発掘・復元・研究ー」、ポスターセッション6件、ワークショップ1。  
3月 欧文誌の名称変更は通信投票で否決される。  
6月3日 国立科学博物館において、関連27学会の参加の下、自然史学会連合設立総会  
6月 新欧文誌タイトル選考委員会発足。  
6月23日 会員数は、賛助会員10名、名誉会員16名、特別会員272名、普通会員667名、在外会員33名、計998名。  
6月24-25日 第144回例会を横須賀市自然博物館・横須賀市文化会館で開催(参加者196名)、普及講演・速水格「ホタテガイの自然史」、シンポジウム「沈み込み帯における化学合成底生生物群集ー相模湾のシロウリガイ類群集の過去・現在・未来ー」、個人講演46件、ポスターセッション9件、夜間小集会1、海洋科学技術センター見学会。  
10月7日 自然史学会連合設立記念シンポジウム「自然と人間の共生ー21世紀の自然史科学の研究と展望」を早稲田大学国際会議場で開催。  
12月16日 新欧文誌タイトル選考委員会答申。  
12月30日 大山桂名誉会員逝去  
12月 特別号35号(Matsumoto, T. "Notes on the Gaudryceratid Ammonites from Hokkaido and South Sakhalin")を刊行。  
大山年次、津田禾粒、鶴田均二、Franz Kahler、池尻博行会員逝去。

## 平成8年(1996)

- 1月13日 名誉会長小林貞一会員逝去、斎藤会長弔辞。  
1月25日 会員数は計990名。化石友の会会員は316名。  
1月 第2次長期計画委員会解散。  
1月26-28日 1996年総会・年会を大阪市立大学理学部で開催(参加者282名)。総会で会則変更(会員の入退会について、

評議員の定数増)、論文賞を柳澤幸夫君、大花民子君に、学術賞を間嶋隆一君に授与。名誉会員に亀井節夫君を推挙。会長講演、特別講演2件、シンポジウム「海洋環境変動とプランクトンフォーナの変遷」講演11件、一般講演115件、ポスターセッション8件、夜間小集会1、小セミナー1。講演予稿集がA4サイズとなる。

- 6月 新欧文誌名称案について全会員に通信投票。  
6月29-30日 第145回例会を新潟大学教養校舎で開催(参加者147名)、シンポジウム「東アジアの中・古生代生物地理とテクトニクス」講演16件、個人講演53件、ポスターセッション3件、夜間小集会1。参加費が年会・総会：一般3500円、学生・友の会2000円、例会：一般3000円、学生・友の会1500円に値上げされた。欧文誌タイトルはPaleontological Researchと決定。  
10月15日 現在の会員は、賛助会員10名、名誉会員15名、特別会員271名、普通会員675名、在外会員34名、計1005名。  
10月26日 自然史学会連合主催「未来へ向けての自然史教育を探るー科学者の眼、子供の眼ー」シンポジウムを東京大学教養学部大講堂で開催。  
12月 特別号36号(Matsumaru, K. "Tertiary larger foraminifer (Foraminiferida) from the Ogasawara Islands, Japan")を刊行。  
高安泰助、上田哲郎、小貫義男、吉田照喜、香川良道会員逝去。  
60周年の貢献賞受賞者の大山盛保氏逝去。

## 平成9年(1997)

- 1月 第三次長期計画委員会は4つの小委員会よりなる常設委員会とする。  
1月29日 会員数は計1032名。化石友の会会員は243名。  
1月30日-2月1日 1997年総会・年会を京都大学理学部で開催(参加者324名)。総会で論文賞を松原尚志君、甲能直樹君に、学術賞を松川正樹君に授与。名誉会員に木村達明君、高柳洋吉君を推挙。会長講演、特別講演1件、学術講演会「カンブリア大爆発ー環境激変と多細胞動物の起源」講演6件、シンポジウム「堆積サイクル・古環境・古生態」講演6件、一般講演132件、ポスターセッション13件。  
5月24日 現在の会員は、賛助会員9名、名誉会員17名、特別会員284名、普通会員684名、在外会員40名、計1034名。  
6月28-29日 第146回例会を豊橋市自然史博物館で開催(参加者235名)、ロシア科学アカデミー古生物研究所の研究者2名を招聘しての記念講演会「ロシア発古生物学最前線」講演2件、シンポジウム「古生物学と博物館」講演5件、個人講演47件、ポスターセッション2件。会員数は、計1038名。友の会240名。  
9月 特別号37号("Bibliography of Palaeontology in Japan

1991-1995” .207 p.) を刊行.

- 10月10-12日 九州大学で開催された日本地質学会104回年会で古生物学会主催シンポジウム「タフオノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—」が行われた。
- 10月25日 自然史学会連合主催「絶滅の生物学」シンポジウムを国立科学博物館分館講堂で開催。
- 12月3日 会員名簿発行。  
今村外治, 甲藤次郎, 鈴木陽雄, 中村萬次郎会員逝去。

#### 平成10年(1998)

- 1月29日 会員数は, 賛助会員9名, 名誉会員17名, 特別会員282名, 普通会員706名, 在外会員42名, 計1056名。化石友の会会員は240名。
- 1月30日—2月1日 1998年総会・年会を神奈川県立生命の星・地球博物館で開催(参加者325名)。総会で学会賞(横山賞)を速水 格君に, 論文賞を生形貴男君, 小竹信宏君に, 学術賞を前田晴良君, 松岡 篤君に授与。会長講演, 特別講演1件, 公開講演・鎮西清高「カキの生活と進化」, シンポジウム「復元の科学」講演6件, 個人講演125件, ポスターセッション12件, 夜間小集会友の会, 国立科学博物館共催で「中生代は虫類研究の最近の話題」および「ゴンドワナ大陸の恐竜」講演会を開催した。  
2001年6月より総会・年会を6月に, 例会も変更すると改革。
- 6月27-28日 第147回例会を北海道大学理学部で開催(参加者135名), シンポジウム「復元の科学その2・海洋古環境復元における古生物学とその境界領域」講演6件, 個人講演51件, ポスターセッション6件, 研究集会1。
- 6月 2001年より年会・総会を6月に開催すると決定, 通知。
- 8月17-24日 ショートコース「化石と分子」を東京大学地質学教室と東京大学三崎臨海実験所で開催。32名参加。
- 10月24日 自然史学会連合主催「干潟の自然史—干潟の過去, 現在, 未来」シンポジウムを国立科学博物館分館講堂で開催。
- 11月21-23日 野外ワークショップ「今, フィールド古生物学が面白い!」を千葉大学理学部海洋生態系センター小湊実験場で開催。30名参加。  
小関 攻, 阿部勝巳, 佐藤信一, 野田光男会員逝去。

#### 平成11年(1999)

- 1月28日 会員数は, 賛助会員8名, 名誉会員17名, 特別会員298名, 普通会員708名, 在外会員37名, 計1078名。化石友の会会員は240名。
- 1月29-31日 1999年総会・年会を東北大学理学部で開催(参加者254名)。2001・2002年度の選挙から評議員の被選挙権を65歳未満の特別会員とする等を決定。総会で論文賞を水野嘉宏君, 杉山和弘・Roger O. Anderson君に, 学術賞を大路樹生君に授与。会長講演, 特別講演2件, シンポジウム「生物事変: 復元の科学3」講演11件, 個人講演133件, ポスターセッション7件, 夜間小集会2。
- 2月13日 化石友の会にて猪郷久義氏講演。
- 6月21日 高井冬二名誉会員逝去。
- 6月26日 第148回例会を兵庫県立人と自然の博物館で開催(参加者121名)シンポジウム「日本の陸生哺乳類の起源」講演8件, 個人講演36件, ポスターセッション5件。
- 9月23-26日 野外ワークショップ「海産無脊椎動物の古生態学」を高知大学海洋生物研究センターで開催。
- 10月16日 自然史学会連合・日本学術会議50周年記念合同シンポジウム「博物館の21世紀—ナチュラリスティックの未来」を国立科学博物館分館講堂で開催。
- 12月 特別号38号(Nomura Ritsuo “Miocene Cassidulinid Foraminifera from Japan”, 69p.)を刊行。会員名簿発行。

柳田壽一, 田中邦雄, 柏倉眞夫会員逝去。

#### 平成12年(2000)

- 1月27日 会員数は, 賛助会員7名, 名誉会員16名, 特別会員293名, 普通会員728名, 在外会員42名, 計1086名。海外欧文誌講読会員13名。
- 1月28-30日 2000年総会・年会を早稲田大学で開催(参加者313名)。総会で論文賞を東條文治・増田富士雄君に, 学術賞を千葉 聡君, 天野和孝君, 柳沢幸夫君に, 貢献賞を故阿部勝巳君に授与。会長講演, 特別講演1件, シンポジウム「白亜紀の炭素循環と生物多様性の変動」講演13件, 個人講演115件, ポスターセッション14件。
- 5月15日 橋本互名誉会員逝去。
- 6月24-25日 第149回例会を群馬県立自然史博物館で開催(参加者168名), シンポジウム「1500万年前頃の群馬の海—そのおいたちと生物たち—」7, 個人講演37, ポスターセッション7, 群馬県立自然史博物館見学会。
- 10月14日 自然史学会連合シンポジウム「21世紀の自然史科学における画像データベース」を国立科学博物館分館で開催。
- 11月5日 池辺展生名誉会員逝去。  
川下由太郎, 牧島邦夫, 富永振作会員逝去

#### 平成13年(2001)

- 1月26日 会員数は, 賛助会員7名, 名誉会員14名, 特別会員310名, 普通会員723名, 在外会員43名, 計1097名。海外欧文誌講読会員13名。
- 1月27日 第150回例会をミュージアムパーク茨城県自然博物館で開催(参加者226名), シンポジウム「新生代軟体動物古生物学の最近の進展と課題」講演13件, 個人講演61件, ポスターセッション9件。
- 6月 特別号No. 39, 池谷仙之・平野弘道・小笠原憲四郎編 “The database of Japanese fossil type specimens described during the 20<sup>th</sup> Century” 503p. を刊行決定。
- 6月18日 元会長木村達明会員逝去, 斎藤会長弔辞。
- 6月29日—7月1日 2001年総会・年会を国立オリンピック記念青少年総合センターで開催(参加者361名)。総会で学会賞(横山賞)を花井哲郎君, 高柳洋吉君に, 貢献賞を故川下由太郎君, 宮内敏哉君, 東海化石研究会に, 論文賞を北里 洋・土屋正史・高原健二君, 長谷川卓・初貝隆行君, 狩野恭則・加瀬友喜君に, 学術賞を江崎洋一君, 野村律夫君, 指田勝男君に授与。会長講演, ミレニアムシンポジウム「21世紀の古生物学」講演20件, 課題シンポジウム17件, 総講演数124件, ポスターセッション24件。7月2日野外巡検。
- 11月10日 自然史学会連合シンポジウム「遺体が語る自然史」を国立科学博物館分館で開催。
- 12月25日 特別号39号(化石タイプ標本データベースPart 1)を刊行。  
渡辺耕造, 日高 稔, 松尾康弘, 粉川昭平会員逝去。

#### 平成14年(2002)

- 1月25日 会員数は, 賛助会員7名, 名誉会員13名, 特別会員317名, 普通会員726名, 在外会員43名, 計1106名。海外欧文誌講読会員13名, 化石友の会会員は124名。
- 1月26-27日 第151回例会を鹿児島大学で開催(参加者133名), 特別講演5件, 公開講演「21世紀は自然史の時代—古生物学・フィールド科学からの提言」3件, 個人講演49件, ポスターセッション17件。
- 4月10日 名簿発行。
- 6月21-23日 2002年総会・年会を福井県立恐竜博物館で開催(参加者317名)。総会で学会賞(横山賞)を斎藤常正君, 鎮西清高君に, 論文賞を斎藤道子・遠藤一佳君に, 学

術賞を近藤康生君、小竹信宏君に授与。会長講演、特別講演1普及講演「中国の恐竜化石研究百年」1、国際シンポジウム「環日本海地域における白亜系層序と国際対比—手取層群を中心として—」講演14件、個人講演97件、ポスターセッション19件。

- 6月15日 会員数は、賛助会員7名、名誉会員13名、特別会員327名、普通会員739名、在外会員44名、計1132名。海外欧文誌講読会員13名、化石友の会会員は124名。
- 12月7日 自然史学会連合シンポジウム「極域の生物学—フィールドサイエンスの最前線」を国立科学博物館分館で開催。
- 12月25日 特別号40号（化石タイプ標本データベースPart 2）を刊行。

#### 平成15年（2003）

- 1月23日 会員数は、賛助会員7名、名誉会員13名、特別会員329名、普通会員754名、在外会員42名、計1145名。海外欧文誌講読会員13名、化石友の会会員は126名。
- 1月24—26日 第152回例会を横浜国立大学教育人間科学部で開催（参加者266名）、シンポジウム「白亜紀海洋無酸素事変の解明」講演11件、シンポジウム「中・古生代微化石研究の現状と将来」講演10件、ワークショップ1、個人講演53件、ポスターセッション6件。
- 2月15日 浅間一男名誉会員逝去。
- 6月26日 会員数は、賛助会員7名、名誉会員14名、特別会員323名、普通会員772名、在外会員39名、計1155名。海外欧文誌講読会員14名、化石友の会会員は126名。
- 6月27—29日 2003年総会・年会を静岡大学で開催（参加者309名）。総会で学会賞（横山賞）を猪郷久義君に、論文賞を鈴木雄太郎君、坂倉範彦君に、学術賞を西田治文君に授与。会長講演、特別講演2件、シンポジウム「生物多様性と古生物学」講演8件、個人講演83件、ポスターセッション23件、夜間小集会1。
- 11月29日 自然史学会連合シンポジウム「予測の自然史科学—未知と未来へのアプローチ」を国立科学博物館分館で開催。  
平山勝美会員逝去。

#### 平成16年（2004）

- 1月23日 会員数は、賛助会員7名、名誉会員14名、特別会員337名、普通会員766名、在外会員41名、計1165名。化石友の会会員は124名。
- 1月24—26日 第153回例会を御所浦島開発センター（御所浦白亜紀資料館）で開催（参加者193名）、学術講演会「天草の構造運動とそれに伴う化石群集と環境の変遷」1件、シンポジウム「干潟の自然、その過去と現在」講演5件、個人講演40件、ポスターセッション16件、野外巡検2コース。
- 2月25日 特別号41号（化石タイプ標本データベースPart 3）を刊行。
- 4月10日 名簿発行。
- 6月24日 会員数は、賛助会員7名、名誉会員14名、特別会員333名、普通会員768名、在外会員42名、計1164名。
- 6月25—28日 2004年総会・年会を北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）で開催（参加者267名）。総会で論文賞を田中源吾・池谷仙之君、北崎朋美・間嶋隆一君に、学術賞を柄沢宏明君、塚越哲君、西弘嗣君に授与。名誉会員に増田孝一郎君、佐藤正君を推戴。会長講演、特別講演1件、シンポジウム「生物イベントとしての哺乳類の海生適応」講演5件、個人講演90件、ポスターセッション22件、野外巡検1コース。
- 8月（財）日本学会事務センター経営破綻、学会費振込先および入退会受付の変更。

- 12月 本会特別号42号（化石タイプ標本データベースPart 4）を刊行。

#### 補遺

- これまでに作成されてきた年表に不備や記載もれがみつかったり、新しい資料が発見されたりしたので、ここで補足する。
- ・1936年の日本古生物学会役員  
会長 徳永重康  
評議員 伊木常誠、井上禧之助、\*大炊御門経輝、\*大塚彌之助、大村一藏、加藤武夫、金原信泰、木村六郎、\*小林貞一、立岩巖、\*徳永重康、中村新太郎、長尾 巧、早坂一郎、藤本治義\*、村上敏藏、山根新次、矢部長克（\*常務委員）
  - ・1977年6月 静岡大学にて第119回例会
  - ・1987年5月15日 黒田徳米名誉会員逝去。
  - ・本会特別号34号。猪郷久義他。“Bibliography of Palaeontology in Japan 1986-1990”. 1993.

#### 役員名簿

アルファベット順、\*は常務委員

#### 平成7—8年（1995-1996）

- 名誉会長 小林貞一  
会長 斎藤常正  
評議員 猪郷久義、池谷仙之\*、糸魚川淳二、小笠原憲四郎\*、小島郁生、小澤智生、加瀬友喜\*、木村達明\*、小泉 格、斎藤常正、高柳洋吉、棚部一成\*、鎮西清高、野田浩司\*、長谷川善和、濱田隆士、速水 格、平野弘道\*、森 啓\*、八尾 昭  
幹事 安達修子、石橋 毅、上野勝美、遠藤一佳、大花民子、指田勝男、重田康成、島本昌憲、松隈明彦、真鍋 真、Robert Ross  
会計監査 間嶋隆一

#### 平成9—10年（1997-1998）

- 会長 池谷仙之  
評議員 猪郷久義、池谷仙之\*、糸魚川淳二、大路樹生\*、大野照文\*、小笠原憲四郎\*、小島郁生、小澤智生、加瀬友喜\*、北里 洋\*、小泉 格、斎藤常正、瀬戸口烈司、棚部一成\*、鎮西清高、富田幸光\*、野田浩司、長谷川善和、濱田隆士、速水 格\*、平野弘道\*、前田晴良、間嶋隆一\*、森 啓\*、八尾 昭  
幹事 遠藤一佳、千葉 聡、北村晃寿、上野勝美、重田康成、島本昌憲、甲能直樹、樽 創、三次徳二、森田利仁  
会計監査 松川正樹

#### 平成11—12年（1999-2000）

- 会長 森 啓  
評議員 鎮西清高、濱田隆士、長谷川善和、速水 格、平野弘道\*、池谷仙之\*、糸魚川淳二、加瀬友喜\*、北里 洋\*、小泉 格、前田晴良\*、間嶋隆一\*、真鍋 真\*、森 啓、野田浩司、小島郁生、小笠原憲四郎\*、大野照文、大路樹生\*、小澤智生、斎藤常正、瀬戸口烈司、棚部一成\*、富田幸光\*、八尾 昭  
幹事 安達修子、遠藤一佳、重田康成、甲能直樹、田中秀典、樽 創、島本昌憲、生形貴男、塚越 哲、三次徳二  
会計監査 小竹信宏

#### 平成13—14年（2001-2002）

- 名誉会長 松本達郎（2002より）  
会長 平野弘道  
評議員 安達修子\*、天野和孝、安藤寿男\*、後藤仁敏、平野弘道、池谷仙之、加瀬友喜\*、北里 洋\*、小泉 格、近藤康生、

前田晴良\*, 間嶋隆一\*, 真鍋 真\*, 森 啓, 西 弘嗣,  
野田浩司, 岡田尚武, 小笠原憲四郎\*, 大路樹生\*, 小  
澤智生, 瀬戸口烈司, 棚部一成\*, 富田幸光\*, 植村和彦\*,  
八尾 昭  
幹事 遠藤一佳, 川辺文久, 甲能直樹, 本山 功, 成瀬 元,  
佐々木猛智, 重田康成, 樽 創, 谷村好洋, 佐藤慎一,  
島本昌憲  
会計監査 柳沢幸夫

平成15-16年(2003-2004)

名誉会長 松本達郎  
会長 棚部一成  
評議員 安達修子\*, 天野和孝, 安藤寿男, 平野弘道, 池谷仙之,  
加瀬友喜\*, 北里 洋\*, 近藤康生, 甲能直樹\*, 前田晴  
良\*, 間嶋隆一\*, 真鍋 真\*, 森 啓, 西 弘嗣, 尾田  
太良, 小笠原憲四郎\*, 大路樹生\*, 小澤智生, 瀬戸口烈司,  
平 朝彦, 棚部一成, 富田幸光, 植村和彦\*, 柳沢幸夫,  
八尾 昭  
幹事 佐々木猛智, 重田康成, 佐藤慎一, 島本昌憲, 成瀬 元,  
佐藤武宏, 遠藤一佳, 本山 功, 樽 創, 鈴木雄太郎,  
川辺文久  
会計監査 利光誠一

### 学会賞・論文賞・学術賞・貢献賞受賞者名簿

(1995年度-2004年度のみ, 受賞日は各年度翌年の総会, 敬称略)

#### 学会賞(横山賞)

1997年度. 速水 格.  
2000年度. 花井哲郎, 高柳洋吉.  
2001年度. 鎮西清高, 斎藤常正.  
2002年度. 猪郷久義.

#### 学術賞

1995年度. 間嶋隆一, 本邦新生代貝類の古生物学的研究.  
1996年度. 松川正樹, 白亜紀陸水域の古生物学的研究.  
1997年度. 前田晴良, アンモナイトの分類学的・古生態学的研究.  
松岡 篤, 放散虫の層序学的・古生態学的研究.  
1998年度. 大路樹生, 有柄ウミユリ類の自然史学的研究.  
1999年度. 千葉 聡, 陸生貝類の進化古生物学的研究.  
天野和孝, 新生代北方系軟体動物の系統分類学的・古  
生物地理学的研究.  
柳沢幸夫, 珪藻化石の形態学的・層序学的研究.  
2000年度. 江崎洋一, 六放サンゴ類の起源と進化に関する古生物学  
的研究.  
野村律夫, 底生有孔虫の殻壁構造に基づく分類学的研  
究.  
指田勝男, 中・古生代放散虫化石の古生物学的研究.  
2001年度. 近藤康生, 二枚貝類の進化古生態学的研究.  
小竹信宏, 生痕化石の古生態学的研究.  
2002年度. 西田治文, 鋳化石植物の形態と系統学的研究.  
2003年度. 柄沢宏明, 化石甲殻類の系統分類学的研究.  
塚越 哲, 貝形虫類の進化古生物学的研究.  
西 弘嗣, 浮遊性有孔虫類の古海洋学的研究.  
2004年度. 生形貴男, 二枚貝類の理論形態学的研究.  
藻谷亮介, 魚竜の進化古生物学的研究.  
神谷隆宏, 貝形虫類の古生物学的研究.

#### 論文賞

(新篇は日本古生物学会報告紀事, 他は *Paleontological Research* 掲  
載論文)

1995年度. 柳沢幸夫, Cenozoic diatom genus *Bogorovia* Jousé:  
An emended description, 新篇, 177号, 21-42, 1995.

大花民子, Further observations of *Cunninghamiostrobus*  
*yubariensis* Stopes and Fujii from the Upper Yezo  
Group (Upper Cretaceous), Hokkaido, Japan, 新篇,  
178号, 122-141, 1995.  
1996年度. 松原尚志, Fossil Mollusca of the Lower Miocene  
Yotsuyaku Formation in the Ninohe district, Iwate  
Prefecture, Northeast Japan, Part 1. General  
consideration of the fauna, 新篇, 180号, 303-320,  
1995. 甲能直樹, Miocene pinniped *Allodesmus*  
(Mammalia: Carnivora); with special reference to the  
"Mito seal" from Ibaraki Prefecture, Central Japan, 新  
篇, 181号, 388-404, 1996.  
1997年度. 生形貴男, Mantle kinematics and formation of  
commarginal shell sculpture in Bivalvia, vol. 1, no. 2,  
132-143, 1997. 小竹信宏, Ethological interpretation of  
the trace fossil *Zoophycos* in the Hikoroichi Formation  
(Lower Carboniferous), southern Kitakami Mountains,  
Northeast Japan, vol. 1, no. 1, 15-28, 1997.  
1998年度. 水野嘉宏, Conodont faunas across the Mid-  
Carboniferous boundary in the Hina Limestone,  
Southwest Japan, vol. 1, no. 4, 237-259, 1997. 杉山和弘・  
Roger O. Anderson, The fine structures of some living  
Spyrida (Nassellaria, Radiolaria) and their implications  
for nassellarian classification, vol. 2, no. 2, 75-88, 1998.  
1999年度. 東條文治・増田富士雄, Tidal growth patterns and  
growth curves of the Miocene potamidid gastropod  
*Vicarya yokoyamai*, vol. 3, no. 3, 193-201, 1999.  
2000年度. 北里 洋・土屋正史・高原健二, Recognition of  
breeding population in foraminifera: an example using  
the genus *Glabrattella*, vol. 4, no. 1, 1-15, 2000. 長谷川  
卓・初貝隆行, Carbon-isotope stratigraphy and its  
chronostratigraphic significance for the Cretaceous Yezo  
Group, Kotanbetsu area, Hokkaido, Japan, vol. 4, no. 2,  
95-105, 2000. 狩野恭則・加瀬友喜, Taxonomic revision  
of *Pisulina* (Gastropoda: Neritopsina) from submarine  
caves in the tropical Indo-Pacific, vol. 4, no. 2, 107-129,  
2000.  
2001年度. 斎藤道子・遠藤一佳, Molecular phylogeny and  
morphological evolution of laqueoid brachiopods, vol. 5,  
no. 2, 87-100, 2001.  
2002年度. 鈴木雄太郎, Systematic position and palaeoecology  
of a cavity-dwelling trilobite, *Ityophorus undulatus*  
Warburg, 1925, from the Upper Ordovician Boda  
Limestone, Sweden, vol. 6, no. 1, 73-83, 2002. 坂倉範  
彦, Taphonomy of the bivalve assemblages in the upper  
part of the Paleogene Ashiya Group, southwestern  
Japan, vol. 6, no.1, 101-120, 2002.  
2003年度. 田中源吾・池谷仙之, Migration and speciation of the  
*Loxococoncha japonica* species group (Ostracoda) in East  
Asia, vol. 6, no. 3, 265-284, 2002. 北崎朋美・間嶋隆  
一, A slope to outer-shelf cold-seep assemblage in the  
Plio-Pleistocene Kazusa Group, Pacific side of central  
Japan, vol. 7, no. 4, 279-296, 2003.  
2004年度. 石川牧子・加瀬友喜・筒井秀和・東條文治, Snails  
versus hermit crabs: a new interpretation on shell-  
peeling predation in fossil gastropod assemblages, vol.  
8, no. 2, 99-108, 2004. 須藤 斎, Fossil marine diatom  
resting spore morpho-genus *Gemellodiscus* gen. nov.  
in the North Pacific and Norwegian Sea, vol. 8, no. 4,  
p. 255-282, 2004. 疋田吉識・鈴木清一・都郷義寛・井  
尻 暁, An exceptionally well-preserved fossil seep  
community from the Cretaceous Yezo Group in the  
Nakagawa area, Hokkaido, northern Japan, vol. 7, no.

4, p. 329-342, 2003.

#### 貢献賞

1999年度 故・阿部勝巳

2000年度 故・川下由太郎, 宮内敏哉, 東海化石研究会

2004年度 株式会社朝倉書店

### 学会定期刊行物目録 (1995-2004)

#### 日本古生物学会報告・紀事, 新篇 (*Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan, New Series*)

No. 177. Art. No. 982-986. p.1-88, April 30, 1995 (本号からA4レター版で出版)

No. 178. Art. No. 987-990. p. 89-156, June 30, 1995

No. 179. Art. No. 991-994. p. 157-202, September 30, 1995

No. 180. Art. No. 995-1002. p. 203-336, December 30, 1995

No. 181. Art. No. 1003-1007. p. 337-412, April 30, 1996

No. 182. Art. No. 1008-1014. p. 413-484, June 30, 1996

No. 183. Art. No. 1015-1018. p. 485-554, September 30, 1996

No. 184. Art. No. 1019-1024. p. 555-671, December 30, 1996

#### *Paleontological Research* (5巻まで旧名を並記)

Vol. 1, no. 1. 6 articles. p. 1-80, April 30, 1997.

Vol. 1, no. 2. 6 articles, 1 short note. p. 81-156, June 30, 1997.

Vol. 1, no. 3. 6 articles. p. 157-236, September 30, 1997.

Vol. 1, no. 4. 7 articles, 1 short note. p. 237-320, December 130, 1997.

Vol. 2, no. 1. 6 articles, 1 short note. p. 1-74, April 30, 1998.

Vol. 2, no. 2. 7 articles, 2 short notes. p. 75-154, June 30, 1998.

Vol. 2, no. 3. 5 articles. p. 155-216, September 30, 1998.

Vol. 2, no. 4. 6 articles, 4 short notes. p. 217-296, December 30, 1998.

Vol. 3, no. 1. 7 articles. p. 1-64, April 30, 1999.

Vol. 3, no. 2. 6 articles. p. 65-140, June 30, 1999.

Vol. 3, no. 3. 6 articles. p. 141-224, September 30, 1999.

Vol. 3, no. 4. 7 articles. p. 225-305, December 30, 1999.

Vol. 4, no. 1. 8 articles. p. 1-82, April 28, 2000.

Vol. 4, no. 2. 7 articles. p. 83-164, June 30, 2000.

Vol. 4, no. 3. 5 articles; 1 short note. p. 165-230, September 29, 2000.

Vol. 4, no. 4. 6 articles. p. 231-315, December 30, 2000.

Vol. 5, no. 1. 7 articles. p. 1-76, April 30, 2001.

Vol. 5, no. 2. 7 articles. p. 77-142, June 29, 2001.

Vol. 5, no. 3. 6 articles. p. 143-228, September 28, 2001.

Vol. 5, no. 4. 7 articles. p. 229-332, December 31, 2001.

Vol. 6, no. 1. 7 articles, 1 short note. p. 1-126, April 30, 2002 (表紙デザインを変更).

Vol. 6, no. 2. 6 articles. p. 127-238, June 28, 2002.

Vol. 6, no. 3. 6 articles. p. 239-330, September 30, 2002.

Vol. 6, no. 4. 5 articles, 1 short note. p. 331-403, December 31, 2002.

Vol. 7, no. 1. Theme Issue: The origin and early evolution of Metazoa, presented in the 17<sup>th</sup> International Symposium in conjunction with Award of the International Prize for Biology (Kyoto, December 5-6, 2001), 5 selected papers. p. 1-104, March 31, 2003.

Vol. 7, no. 2. 5 articles, 1 short note. p. 105-184, June 30, 2003.

Vol. 7, no. 3. 5 articles. p. 185-276, September 30, 2003

Vol. 7, no. 4. Theme Issue: Carbonate rocks of fossil chemosynthetic assemblages in Japan, selected 5 papers in a symposium at the 2001 annual meeting of the Palaeontological Society of Japan. 2 articles, 1 short note. p. 277-368, December 31, 2003.

Vol. 8, no. 1. 6 articles, 1 short note. p. 1-90, April 30, 2004.

Vol. 8, no. 2. 6 articles. p. 91-142, June 30, 2004.

Vol. 8, no. 3. 5 articles. p. 143-220, September 30, 2004.

Vol. 8, no. 4. 6 articles; 2 short notes. p. 221-370, December 31, 2004.

#### 特別号

No. 35, Matsumoto Tatsuro, "Notes on the Gaudryceratid ammonites from Hokkaido and South Sakhalin", 1995.

No. 36, Matsumaru Kunitaru, "Tertiary larger foraminifer (Foraminiferida) from the Ogasawara Islands, Japan", 1996.

No.37, Noriyuki Ikeya, Katsumi Abe and Akihisa Kitamura, "Bibliography of Palaeontology in Japan 1991-1995". 207 p., 1997 (本号でB5版サイズ終了).

No.38, Nomura Ritsuo, "Miocene Cassidulinid Foraminifera from Japan", 69p., 1999 (本号よりA4国際版).

No. 39, The database of Japanese fossil type specimens described during the 20<sup>th</sup> Century (Part 1). Edited by Noriyuki Ikeya, Hiromichi Hirano and Kenshiro Ogasawara, 503p., 2001年6月.

No. 40, The database of Japanese fossil type specimens described during the 20<sup>th</sup> Century (Part 2). Edited by Noriyuki Ikeya, Hiromichi Hirano and Kenshiro Ogasawara, 586p., 2002年12月.

No.41, The database of Japanese fossil type specimens described during the 20<sup>th</sup> Century (Part 3). Edited by Noriyuki Ikeya, Hiromichi Hirano and Kenshiro Ogasawara, 360p., 2003年12月.

No. 42, The database of Japanese fossil type specimens described during the 20<sup>th</sup> Century (Part 4). Edited by Noriyuki Ikeya, Hiromichi Hirano and Kenshiro Ogasawara, 75p., 2004年6月.

#### 古生物学トピックス (国際版, 1000円)

No. 1, 奈良正和編, 「ダイナミック古生態学—古環境と化石底生群集との相互利用」, 第1回フィールドワークショップ資料, 95p., 2000年1月.

No. 2, 松岡篤編, 「パンサラサ-テチスの古海洋学—グローバル・フィールド・サイエンスへの招待」, 100 p., 2001年6月.

#### 化石

58号, 83p., 1995年6月 (71号までB5版).

59号, 88p., 1995年12月.

60号, 86p., 1996年6月.

61号, 78p., 1996年12月.

62号, 65p., 1997年6月.

63号, 70p., 1997年12月.

64号, 88p., 1998年7月.

65号, 43p., 1998年12月.

66号, 88p., 1999年9月.

67号, 84p., 2000年3月.

68号, 54p., 2000年9月.

69号, 45p., 2001年3月.

70号, 72p., 2001年9月.

71号, 76p., 2002年3月.

72号, 62p., 2002年9月 (本号からA4版で出版).

73号, 70p., 2003年3月.

74号, 106p., 2003年9月.

75号, 80p., 2004年3月.

76号, 164p., 2004年9月.

#### 補遺

##### (学会刊行物に見る日本古生物学会の小史)

日本古生物学会報告・紀事

・菊版 1935-1938

・B5判 1938-1950

・全部で35号を地質学雑誌の1部として, つまり別刷りの形で刊

行した。

#### New Series

- ・ B5判 1951-1994年に176号を刊行した。
- ・ A4レター版は1995-96年のみ刊行した。

#### Paleontological Research

- ・ 1997年より刊行し続けている。
- ・ 5巻まで旧名を並記し、*Nipponites*の図も中央に入れていた。
- ・ 6巻からデザインは変更された。
- ・ 古生物学の論文、総論、短報のみとなる。

#### 化石

- ・ A5版 1960-1981 シンポジウムなどの内容報告が30号刊行された。
- ・ B5版 1982-2002 31—71号。
- ・ A4判 2002— 72号—。
- ・ 1983年の33号より日本古生物学会の学会記事が「化石」誌に載るようになった。
- ・ 学会誌の版が大型になるのも、欧文誌と和文誌の二段構えの雑誌体制になるのも、日本の多くの自然科学関連雑誌の趨勢と期を一にしている。

#### 特別号

- ・ B5版 1997年 37号まで。
- ・ A4国際版 1999年の38号から。
- ・ 特別号は5年ごとにBibliography, 化石タイプ標本データベースの発行を行ってきた。

#### 古生物学トピックス

- ・ 国際版で2000, 2001年に2号のみ刊行された。

#### 特別出版物

- ・ 古生物学会の周年行事などにもなう特別出版物には以下のようなものがある。
- ・ 1961 Catalogue of type-specimens of fossils in Japan, compiled by Shoshiro Hanzawa, Kiyoshi Asano, and Fuyuji Takai, published by the Society, February 15, 1961 (創立25周年を記念して, 1888年から1960年9月までに記載された5856種についてのチェックリスト, 初出印刷物, 模写地等がリストされている。B5判, 422 p.).
- ・ 1963 A survey of the fossils from Japan illustrated in classical monographs (Primarily a nomenclatorial revision) edited by Tatsuro Matsumoto (創立25周年を記念して1877年から1894年に出版された古典的な古生物学論文10編の図版部を覆刻してある。A4判57p., 68図版)。
- ・ 1970 日本古生物学会の回想(後閑文之助, 矢部長克, 早坂一郎, 横山次郎による明治前, 明治期, 大正期の回想録。A5判, 59p.)。
- ・ 1976 A Concise History of Palaeontology in Japan, edited by Matsumoto, T., T. Hamada, H. Ujiié and Y. Takayanagi (日本古生物学会報告紀事100号を記念して, 日本の古生物学の歴史を日本古生物学会全体と分類群別【微古生物(古生代・古生代以降), 腔腸動物, コケムシ動物, 腕足動物, 頭足類, 軟体動物, 節足動物, 棘皮動物, 脊椎動物, 生痕, 植物(古生代, 中生代, 新生代), 花粉, 藻類】にわけて概要をまとめた19論文よりなる。B5判, 80p.)。

